

# まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

147号

2013年1月21日



ときわ台の景観を守る会

ときわ台まちづくり委員会

代表 鈴木博之 近藤洋子

事務局 島田晴子 tel・fax 3960-3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

## ○ 「高度利用を図る街並み」

常盤台北口駅前を「高度利用を図る街並み」とする板橋区の方針に反対する要望署名は735名に達し、1月11日、議会事務局窓口に出しました。ドイツの建築家、水島信さんの意見書、常盤台住民の「私達のひとこと」も添えました。

ご協力くださった皆さん、有難うございました。状況次第で引き続き追加の署名運動を続ける予定です。

ただ、都市計画審議会や都市建設委員会、景観審議会などを扱っているのは都市整備部なので、パブリック・コメントのその後の結果なども聞くため、面談の上、手渡したのですが、参事以下三人の態度は大変不愉快なものでした。署名運動の文面が誤解を招いていると称して受け取りを拒絶したがったのです。判断はそれぞれの委員会がすべきことだろうと言って預けて来ましたが、委員や議員に区民の要望を伝えることに、もっと親切に対応するべきではないでしょうか。

パブリックコメントも一生懸命皆さんが書いて出しても、受け取ったという挨拶もなく、ありきたりの「前向きに検討します」で結果的には無視、ということなら、区民は行政に絶望し、何を言っても無駄、とってしまうでしょう。

このような計画ではなるべく既存不適格を出さないことが求められていると思います。しかし現在、北口には11階建てが2棟であるのに対し、南口には14階建てが3棟も建っているのに、この方針図では、北口だけに高度利用を図るとなっています。なぜでしょうか。どちらが高度利用を図る街並みとして抵抗がないか、考えてほしいものです。

## ○ 景観形成重点地区をめざしての 板橋区主催第2回懇談会

時 1月18日(金)18時30分～20時  
所 常盤台集会所(元介護センター2階)

薄緑の紙で区からのお知らせがポスティングされていました。第1回が昨年9月、この日が第2回目でした。合意形成を求めるには、月1回程度の開催が必要ではないでしょうか。また、最低限、議事進行のマナーを守らないと、せっかくの会議が不毛になり、時間を浪費することになります。(裏面に続き)

## ○ バザーの報告

都知事選と衆議院選が重なった12月16日(日)、1、2丁目町会事務所を借りてバザーを開きました。投票率が低いのに連動してお客が例年より少なめでしたが、17名もの方から品物提供があったお陰と会員の頑張りで、売り上げは8万ちょっとになりました。会員の会費と合わせてニュースの紙代・印刷費・講演会の経費などに充てることが出来ます。有難うございました。

今夏の参議院選に向け、不用品をストックしておいていただけると嬉しいです。

こんな光景もありました。若いお母さんの陰でもじもじしていた男の子が差し出したのは使い古したバッグやおもちゃ。物を大切にすることをお母さんが教えていたのですね。君の大事な物は、100円か200円でしか売れなかったけれど、それを安く買うことのできた子が喜んで使ってくれると思います。

また、残った中から男物ジャンパー3点と、毛糸の襟巻き5点ほどは、池袋の路上生活者支援団体「てのはし」に寄付する事ができました。



## 懇談会(続き)

前回は住宅地の人たちばかりで、商店街の意見が聞かれなかったので、区はアンケートを取り、出席を促したようで、五、六名の商店街の人たちが来ていたのですが、充分に建設的な論議が行われないまま終わってしまったのは残念です。何年も前から関わっていた人たちと初参加の人たちに大きな差があるのも事実でした。また、決定権は住民や権利者にあるとしても、前回まで参加して有意義な提案をしてくれた龍谷大の学生の意見を聞く必要がないとした区の態度は閉鎖的で、狭量なものだと思います。これでは良いものは作れないでしょう。難しい課題を解決していくには、頻度を多くし、多くの人が継続的に参加する必要があります。

## 本当の町おこしとは？

人口減少と不景気とで、商店街はシャッター街と化したり、住宅地は将来スラム化したりする恐れがあります。現に売れ残りのマンションや借り手の見つからないアパートが増えつつあります。そのような中で、なんとか町に活気を取り戻したいと、いわゆる町おこし運動が提唱されます。よく行われるのが祭りや市などのイベントですが、行事は一時的なものに過ぎません。イベント頼りの町おこしは長続きしないと思われます。その町の良さを考え、住宅地なら住んでみたい、商店なら何度も訪れたい、と思われるような町でなくてはならないでしょう。

常盤台らしさとはなんでしょう。そこに住み続ける誇りを持つような町とはどんな姿なのでしょう。その住民に支持される商店とは？

## 常盤台駅舎の保存

常盤台駅舎は、昭和十年当時のまま残る貴重な文化遺産です。青い瓦屋根や大谷石の壁など、移築の話も乗り越え、改修時でもできるだけ当時の面影を残し、その時々の人々の配慮で今まで大事に残され、親しまれてきた建物です。

Fさんは仕事のかたわらジオラマ(模型)を作っています。見せていただいた常盤台駅の模型は、歴史的な建築を残したいという気持ちの籠もった精密なものでした。

今の状態は、ホコリにまみれて、過剰な広告物におおわれて可哀想な状態ですが、もつと景観に配慮して保存していけば、ジオラマ作家や写真家も喜びそうな駅舎でありつづけることでしょう。

駅舎だけでなく、この街には普段は気づかない宝が沢山あるのではないのでしょうか。

## ロータリーコンサート

十二月十六日(日)十七時十五分から、恒例となっている常盤台バプテスト教会聖歌隊によるクリスマスキャロルが駅前ロータリーで行われました。

寒さもこの日は少しゆるみ、風も無かったので、例年より歌う方も聞く方も楽だったと思われず。関係の皆さん、お疲れ様でした。

## 常盤台公園のはなづくり

今は公園の植物は冬眠状態です。しかし、よく見ればこの例年にない寒波の中でも、水仙は青い芽をのびしているし、桜の枝にも固いつぼみがついています。人も植物も春の訪れを首を長くして待っているのです。

この期待しながら待っている状態を兼好は「頼もしい」と言いました。学校で習ったころはどういうことか理解できませんでしたが、いつかいつかと待ち焦がれ楽しみにする心をいうのだろうと、納得できた気がします。

ビオトープとやらの池には誰かが放した金魚が数匹いましたが、たぶん図書館屋上の清掃時に、消毒液か洗浄液が流れ込み、全滅してしまいました。子供達が悲しんだようで、Tさんがまた十匹ほど買ってきました。赤い色が池の深みに見えると、冬枯れの草木も華やきます。

一方、野良猫が小学校脇の道路が駐輪場廃止になってから、どうも公園に引越してきたらしいので、この金魚も捕られないか心配です。

十四日は珍しく積雪7cmほどになりました。今年は何度も雪が降りそうです。できれば凍る前に、雪かきをしましょう。ご自分と通行人のためなのですが、お年の方は無理なさらずに。

定例会二月二日(土)七時

「ギャラリー服部」にて